



大本山永平寺

説
戒



お釈迦さまと共に

今月は二十三日から授戒会が勤められます。一週間かけての法要で永平寺内一丸となって取り組めます。

また、ご縁の深いご寺院さまにもお手伝いいただき共々円満成就できることを願い、綿密にさまざま法要準備を進めます。

さて、授戒とはお釈迦さまのお弟子「戒弟かいてい」を誕生させる尊い儀式です。希望される方がた（申込が必要）に対し、七十九世の福山諦法不老閣猊下よりお釈迦さまに源を置く十六のお誓いを受け授かるのです。

十六のお誓いのことを「戒」と言いますが、授かってお弟子になった方はお釈迦さまの人生の歩みとご自分の人生の歩みを同じにしていこうと願い、行うことが大切です。時に、「律」と混同されがちですが、「戒」は他者からの指示、命令の要素が強いのにに対し、「戒」は自主性が重んじられます。

授戒法要では説戒という六の戒についての教示があり、戒の内容と信仰生活への導きがあります。戒弟を希望される方は左記にお問い合わせ下さい。

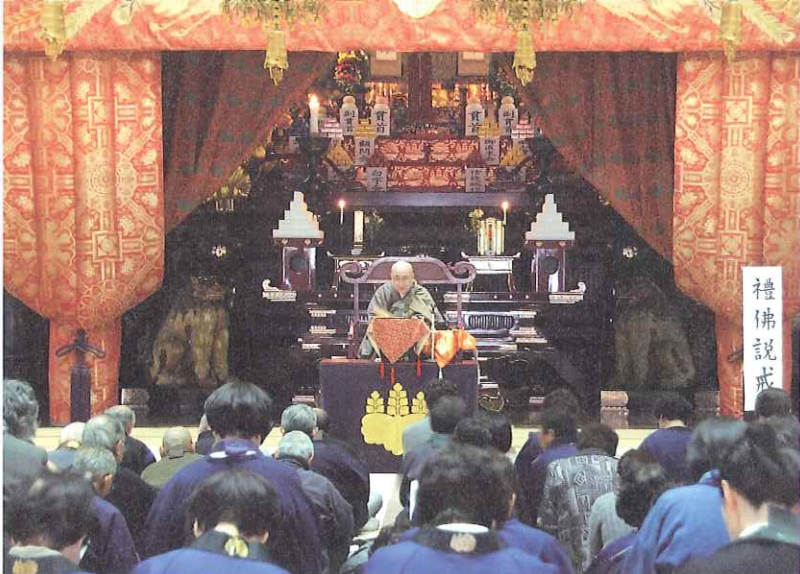
尚事寮

電話 ○七七六一六三一三三三二一

FAX ○七七六一六三一三四九三



大本山總持寺



礼佛說戒風景

報恩大授戒会

四月十日から十六日の七日間、報恩大授戒会がおこなわれ、一〇〇名余りの在家の方がたが戒弟として修行をします。

戒を授ける戒師さまは、今年初めてのお勤めとなる江川辰三禅師さまです。禅師さまは、本年正月、本山にいる私ども、そして檀信徒に向けて、「報恩」の二文字をしっかりと胸にとどめて、この一年を過ごしていただきたいとお言葉を述べられました。

この大授戒会は、總持寺をお開きになられた瑩山禅師、それを受け継がれた峨山禅師、そして歴代の祖師方に対する報恩行といえるものです。また、私たちを授戒の尊い場所に導いてくれた、ご先祖に対する報恩感謝の集いでもあります。

大授戒会で戒弟たちは戒の意義を学び、坐禅をはじめさまざまな修行を体験します。そして五日目夜には、蠟燭の炎が揺らめく、静かでも厳かな大祖堂で、自らを信仰によって悔い改める、懺悔道場が執り行われます。そして、六日目には、禅師さまによって、お釈迦さまから脈々と伝わる、尊い戒法が授けられます。報恩大授戒会は、皆が正しい教えを守り伝えることを誓う七日間です。

曹洞俳壇

選・村松五灰子

双六の老いに程よき一と休み

秋田県 鈴木ゑい子

評 お正月ともなれば可愛い孫達と遊ぶも嬉しいこと。賑やかな子どもたちの声にも疲れたりする。双六のたまたまはまってしまう賽の目の数に、ほっと一休み。楽しい幸せに包まれての一句。

野仏のシミそばかすや日脚伸び

広島県 岡村 憲諒

評 路傍に立つお地藏さまや観音さま不動明王さま等が私たちを見守って居てくれる。いつ頃から此処にお立ちなのか、そのお顔が星霜を語る。仏さまたちにも春は近いようだ。感謝の心の句。

◆寒の水古墨に馴染みかほりけり 宮城県 伊藤 敬吾

◆虎落笛誰ぞ呪ふか逢魔時ちがりはぶえ 東京都 伊奈 三郎

◆春立ちてポストの口の笑いをり 秋田県 小田篤恭葉

◆綿虫のひとつに心をきにけり 千葉県 鈴木 英子

◆長病みの視線にありし新曆 岩手県 鈴木 道昭

◆寒造り蔵に引き込む山の水 秋田県 松山 露州

◆大マスクする兎に席を譲りけり 福島県 大槻 弘

◆庭に皆揃って拜む初日の出 静岡県 青山 清子

◆葬送の肩すべりゆく霞かな 宮城県 木村とみ子

◆救急車はたと止みたる寒さかな 大阪府 柏原 才子

*選者吟

轉やこころ辺りは自然林

五灰子

*作句小見

評釈をしました二句の他も力作ばかりですが、中でも伊藤氏の「寒の水」の静寂の深さに惹かれます。また伊奈氏の暮れなすむ逢魔時の「虎落笛」の寂しい怖さを表現されました。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

浜砂の風紋薄れし丘行けば筆麦の新芽足裏
に応う

愛知県 小久保左門

評 「筆麦」とは弘法麦のことで海岸の砂地に生えるカヤツリグサ科の多年草。麦に似た実がなり、その枯草で筆を作るらしい。その筆麦の新芽を足裏に感じてその生命力を喜ぶ作者。「応う」に作者と草の命の交感があるように思う。

「若者に何を望むか」と孫娘にインタビュ
ーさる年賀の炬燵で

愛知県 戸苺 秋世

評 祖母と孫娘の微笑ましい情景が明るく詠われている。活発なお孫さんは二十歳を迎えられたのかも知れない。インタビューには堂々と応えた作者だったに違いない。

◆柔らかく湿る幼の手が触れて今宵の鬼は癒されている

山口県 浜田 道子

◆妹と会ふを一途に列車待つ赤福足して包みなおしぬ

三重県 野呂 と志

◆死に近き父を幾度も呼ぶ母の声をかき消すごとく雨降る

北海道 池田 雨郷

◆正月も三日が過ぎて静かなる土地の神社へ夫と詣でる

兵庫県 河本佐知代

◆龍らしき白い張り子は夫の作絵付けを待ちて正月近し

大阪府 西口 節子

◆習慣とはおかしなものよ元日もエブロン掛けて炬燵に
坐れり

静岡県 岡田ときえ

◆掌に唾を吐きつけ菅に縊り掛けて注連縄ふら
額寄せ合ひ

岩手県 穴戸さとる

◆雪の道母につかまり登りたる氏神様の元朝参り

福島県 大波シユク

◆川風を袂に入れてどんと焼きおさな馴染みのおさげが
触れる

東京都 野村 信廣

◆敦煌の砂漠で会いし娘子は西瓜を切り分けてくれたり

福井県 清水 博行

*選者詠

しがらみと言いていといし日もありき
今や絆はリボンに結ばれ

ちづ

*作歌小見

漢字一字でその年を表すという恒例の行事で昨年は「絆」が選ばれました。家族の有難さ、地域のつながり、災害時の支援の輪など、人と人との関わりを再確認した年でした。断ち難いもの、負の存在も含めて絆を考えてみたいのです。